

2022年口語詩句新人賞総評 龍 秀美

毎月の選考時に心がけていることですが、日頃口語詩句について考えていることや疑問点を、私なりにその月のテーマとして頭の隅に置いて選ぶようにしています。その疑問について応えてくれる作品のうち、最も多く記憶に残ったのが今年の新人賞受賞者郡司和斗だったのはうれしいことでした。

例えば、7月お盆月の「西欧由来の尾っぽを引きずっている現代詩のなかではなかなか表現しにくい日本の宗教観や情緒」というテーマでは

水の店には水の客/買い物は/死んでからが本番だから

また、「自然と身体との関係を、言葉と言葉との関係に置き換えると何が見えてくるのか」という疑問には

滝がくずれる音を/聴いていると/この身体にも飽きる暁

など印象深いものでした。なお、私は選考の際には姓名、年齢等は一切見ないで行っております。

また全体の選考の基準として四つの柱を立てました。

- ・安定した数と質
- ・独自のものの見方・捉え方
- ・将来への持続可能性と熱意
- ・口語詩句に適したスタイル

推薦に残るほどの作品はみなこの基準を兼ね備えているのですが、迷ったのは、明らかに俳句や短歌など既存の定型詩と見えるものをどこまで口語詩句とみなすかでした。ただこれも、安定した数を確保できればおのずと多様性を持つ姿が見えました。

例年のことですが、自選する目と選考する側の見方の違いを感じました。自選する力といふものは何を選ぶかということです。自分の特質を知ることでもあるでしょう。未知の表現を発見する冒険と、それが作者の中で融合し昇華したかたちを目指すこと。冒険と完成度がせめぎ合う場です。なかなか難しいことですが、こういう場に臨むのは得難い経験になることと思います。

以下、優秀賞・奨励賞の作品で印象深かったものを一作ずつ選んでみます。

郡司和斗（郡司和斗） 新人賞

前述の二作品に加えて

会いたいと同じくらい/会えなくていいと思う/林檎しゅかつと囁く

橋田淳寧（こはくいろ） 優秀賞

向かいあう/矢印たちのまんなかの/空洞こそが/愛なのですよ。

中矢 溫（中矢 溫） 奨励賞

春の舟秋田犬のみのせてゆく

吉沢美香（吉沢美香） 奨励賞

山笑うゆっくりバット持ち替える

山本巧（山本先生） 奨励賞

なんかと言うとねあのね/あつ花火

桜 伸太郎（立花ばとん） 奨励賞

サイコロの1の目/くぼんだところの、/東京

永山 愛望（永山 逢海） 奨励賞

無人駅/エジプト行きを待っている/ペンギンがいる/日焼けしている

江藤 裕子（杢いう子） 奨励賞

梅雨明けをぬぬと回転するケバブ

奥村 俊哉（長谷川柊香） 優秀賞

段ボール持つ/りんごの重心を集める

豊富 瑞歩（豊富 瑞歩） 奨励賞

絶景のために私が目立たない/旅の写真の意味おもしろい

そのほか、龍が推薦したが入選に入らなかった作品は下記のとおりです。

渡邊 早紀（マズルカ）

越して来て/地方ニュースを/見て笑い/風呂に浮かべる小さなあひる

小野寺 里穂（小野寺 里穂）

葬式の帰りに買ったあまいパン

秋山 賴子（天山普美子）

畠からまだ温かき西瓜抱き/ふと思い出す臨月の高鳴り